

何が投票率を高めるのか

松林哲也

担当編集から

直近の参院選投票率は52.05%、衆院選は55.93%でした。1980年代ごろまでの参院・衆院選の投票率はほとんど60%~70%台でしたので、投票率は低下傾向にあります。また、日本の投票率は、国際的にも低いほうに位置づけられます。

そのような状況をふまえて、本書では、どうすれば投票率を高めることができるのかを、実証的に論じます。具体的には、期日前投票期間や投票所数、選挙啓発活動などの投票環境条件に注目し、それぞれが投票率に与える効果について、エビデンスに基づく研究結果をもとにわかりやすく紹介します。たとえば、有権者10万人あたりの期日前投票所数を1つ増やすと、投票率が平均して0.16%ポイント上がることが示されます。こういった分析があつてこそ、投票所を増やすコストをかけるべきか否かの現実的な議論が可能になるのでしょう。

最終章では、そもそも投票率が上がることはよいことなのかという疑問に立ち返ります。投票には行くべきなのか。ぜひ本書を読んで色んな人と議論していただきたいと思います。本書が政治や選挙について考える1つのきっかけになれば幸いです。(岡山)

Point

本書で紹介する研究成果は、すべて日本で実施された選挙を分析対象としたものです!

第1章 何が投票率を高めるのか?

第2章 投票所が近いと投票に行く?—投票所と投票参加

第3章 「投票日、雨の予報」は投票率に影響する?—投票期間と投票参加

第4章 投票啓発活動は投票率向上に効果的?—社会規範と投票参加

第5章 なぜ地方で投票率が高いのか?—議員定数不均衡と投票参加

第6章 新しい政党の参入は投票率を高める?—政党と投票参加

第7章 女性議員が増えると投票率は上がる?—議員属性と投票参加

第8章 投票率をどうやって測る?—データとしての投票参加

第9章 投票率が向上すると政治は変わる?—投票参加の政策的帰結



レベル 初級
用途 学習 教養
対象 学部 一般

2023年8月発売 / 206頁 / 定価2310円(税込)
四六判 / 並製

詳細を見る



BOOK INFORMATION

詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

